

【04】作業療法における音楽からのアプローチ ～作業活動としての音楽実践～

【講師】浅野 雅子

【要旨本文】

作業療法は「人は作業を通して健康や幸福になる」という基本理念に基づき、身体障害や精神障害、発達障害や高齢者等に対して作業に焦点を当てながら治療・指導・援助を行います。この作業療法の治療手段の一つとして用いられる作業活動として「感覚・運動活動」「生活活動」「余暇・創作活動」「仕事・学習活動」等があり、「余暇・創作活動」には絵画や園芸とともに音楽が含まれ、幅広い対象に対して作業療法においても音楽活動が実践として行われています。

この作業活動は、対象者の疾患や症状、障害の程度を踏まえ、どのように活動するかを作業分析や動作分析を行った上で、作業療法介入計画（治療目的や期待される治療効果等を含む）を立案し、治療的応用として作業療法を行います。

この作業療法は、多職種連携として音楽療法士の方々と連携することが比較的多いと思われませんが、作業療法ではどのような治療戦略に基づいて音楽を用いているのかについては、その構造を振り返る機会はあまりなかったのではないのでしょうか。また、自身は作業療法士と音楽療法士両者の養成教育に携わる中で、音楽的知識や技術の豊富な音楽療法士の方々とともに音楽を介入手段として検討する際、介入計画の幅が広がることを実感してきました。

今回は一作業療法士としての限定的な取り組みによる提言ではございますが、一連の作業療法の過程を踏まえながら作業療法士としての自験例を中心に音楽活動実践を紹介することで作業療法の構造理解に繋げ、皆様の音楽療法実践の一助となること、および多職種連携の理解にもお役立て頂けると幸いです。

【講師プロフィール】

精神障害領域における作業療法の中で音楽活動を実践。その後、西九州大学講師を経て北海道医療大学リハビリテーション科学部作業療法学科（現職）。音楽を用いたリハビリテーションの実践および研究に従事しています。

九州大学芸術工学府博士課程後期修了 資格：作業療法士、日本音楽療法学会認定音楽療法士
著書「Evidence Based で考える認知症リハビリテーション（医学書院、2019）」（音楽介入の項担当）